



2024年12月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年11月11日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東
コード番号 4712 URL <https://www.keyholder.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大出 悠史
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 柴野 光平 TEL 03 (5843) 8888
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	21,928	2.1	1,148	△42.3	1,096	△43.6	791	△50.5	898	△44.3	787	△50.2
2023年12月期第3四半期	21,469	31.1	1,991	6.2	1,943	△4.9	1,599	△2.4	1,614	△2.5	1,581	△4.3

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	47.82	47.82
2023年12月期第3四半期	86.30	86.30

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年12月期第3四半期	32,262	20,404	20,788	64.4
2023年12月期	27,215	19,519	19,957	73.3

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2024年12月期	—	0.00	—		
2024年12月期（予想）				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,000	16.3	3,000	52.6	3,000	41.9	159.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社 I O A N T Z

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料P. 16「2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 (5)要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年12月期3Q	18,967,410株	2023年12月期	18,967,410株
② 期末自己株式数	2024年12月期3Q	147,784株	2023年12月期	492,181株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年12月期3Q	18,796,692株	2023年12月期3Q	18,710,671株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 7「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	9
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	11
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	13
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	16
(会計方針の変更)	16
(セグメント情報)	17
(継続企業の前提に関する注記)	19
(重要な後発事象)	20

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があります。先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受け易い事業も一部あるものの、機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととしております。

このような中、株式会社ノース・リバー（以下「NR」という。）が主にゲームアプリの企画・開発・運営等を行う株式会社10ANTZ（以下「TA」という。）の株式の51%を2024年1月1日付けで取得しており、当社グループの更なる収益規模の拡大及び強化に向けた展開を図っております。

また、昨年新設いたしましたbijoux株式会社（以下「BJ」という。）による、大型の新人発掘オーディションを開催し、約7,000名のご応募の中から選出された33名のファイナリストのうち、グランプリを含めて9名が各賞に決定しており、すでに5名の新人が当社グループ内に所属しております。それぞれテレビドラマや映画への出演のほか、モデル、雑誌等への掲載を含めた活動を開始しておりますので、今後にご期待いただければと思います。

足許では、2024年1月26日付け「株式会社トポスエンタープライズの民事再生支援についての意向表明に関するお知らせ」及び4月30日付け「(経過開示)株式会社トポスエンタープライズとの民事再生支援に関するスポンサー契約締結のお知らせ」ならびに8月9日付け「(経過開示)株式会社トポスエンタープライズとの民事再生支援に関するスポンサー契約締結における未確定事項に関するお知らせ」のとおり、10月1日付けで、物流事業や倉庫事業を展開する株式会社トポスエンタープライズ（以下「トポス」という。）を連結子会社化しております。

総合エンターテインメント事業では、大型イベントの開催やライブ・ツアーなどのほか、その他のタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開いたしました。

映像制作事業につきましては、既存の番組制作の進捗のほか、特番放送されていた番組がレギュラー化されたことに加え、ドラマ制作や参画した映画製作案件が公開されるなど順調なほか、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作を行っております。

広告代理店事業につきましても、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を中心に各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めております。

各事業の詳細につきましては、後述のセグメント別概況にて記載しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上収益21,928百万円（前年同四半期比+2.1%）、営業利益1,148百万円（前年同四半期比△42.3%）、税引前四半期利益1,096百万円（前年同四半期比△43.6%）、親会社の所有者に帰属する四半期利益898百万円（前年同四半期比△44.3%）となりました。

なお、前述のトポスのグループインに伴い、2024年10月18日付け「負ののれん発生益の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、通期連結業績予想を上方修正しておりますが、当該内容につきましては、後記「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に掲載いたします。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

(ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト及びNRならびに株式会社A.M. Entertainmentが、アーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動内容は以下のとおりであります。

アーティスト名	実施時期	内容：備考欄
SKE48	1月12日～ 3月26日	プリマステラ「世界ぷりまちゃんず計画 ～大人だけどぷりちいだもん！～編」4都市10公演
	1月27日	TBSチャンネル1「STU48の7ならべ×SKE48の大富豪はおわらない！合同ライブ」
	2月3日	Hello Music Festival 2024 in TOKYO
	2月27日	TBS「PLAYLIST」
	2月28日	32nd シングル「愛のホログラム」リリース
	3月8日	フジテレビ「オールナイトフジコ」
	4月8日	プリマステラ「iLIVE! vol.12」
	4月15日	NHK WORLD-JAPAN「J-MELO」
	4月20日、21日	28 時間テレビ 2024～挑戦～
	5月5日	Hello Music Festival Theater&Live -SKE48-
	5月16日	佐藤佳徳 1stソロライブ～キミとSugar Birthday～
	7月6日～ 8月3日	「SKE48 SUMMER Tour 2024」6都市14公演
	7月13日	TBS「音楽の日2024」
	8月2日	TOKYO IDOL FESTIVAL 2024 supported by にしたんクリニック
	8月8日	8期生8人の8周年コンサート♡ぱちぱちぱーちい♡
	8月10日	テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭りSUMMER STATION 音楽LIVE
9月14日	@JAM EXPO 2024 supported by UP-T	
乃木坂46	1月25日～27日	34th シングルアンダーライブ 3公演
	3月7日～10日	12th YEAR BIRTHDAY LIVE 4公演
	3月18日	TBS「CDTV ライブ!ライブ!」
	3月22日	テレビ朝日系「MUSIC STATION」
	3月29日	日本テレビ系「バズリズム」
	4月6日	NHK「Venue101」
	4月10日	35th シングル「チャンスは平等」リリース
	5月11日、12日	山下美月卒業コンサート
	6月7日～9日	35th シングルアンダーライブ 3公演
	6月28日	香港ライブ
	7月6日	日本テレビ系「THE MUSIC DAY」
	7月13日	TBS「音楽の日2024」
	7月21日～ 9月4日	真夏の全国ツアー2024 7公演
	8月19日	TBS「CDTV ライブ!ライブ!」
	8月21日	36th シングル「チートデイ」リリース
	8月30日	テレビ朝日「MUSIC STATION」
	8月31日	フジテレビ「MUSIC FAIR」
9月14日	NHK「Venue101」	
Novel bright	1月21日	FUKUOKA MUSIC FES. 2024
	2月21日～ 3月12日	NOVELCITY CARNIVAL Vol. 4 3都市3公演
	3月8日	アサヒグループ食品「ミンティア」CM曲「Awesome Life」先行配信
	3月16日	めざましテレビ30周年フェス in 東京
	3月27日	「Sensation」が、サッポロビール(株)の新商品「サッポロ WITH BEER ホワイトエール」のタイアップソングに決定

3月30日	SAPPORO MUSIC EXPERIENCE 2024
4月3日	Major 3rd Full Album「CIRCUS」& Blu-ray & DVD「Novelbright LIVE TOUR 2023 ~ODYSSEY~ FINAL SERIES」at 横浜アリーナ リリース
4月6日～	「Novelbright LIVE TOUR 2024 ~CIRCUS~」 26都市29公演スタート
4月12日	日本テレビ系「バズリズム02」
4月28日	Otomeshi Festival.2024
5月3日	JAPAN JAM 2024
5月12日	OSAKA METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2024
5月19日	TOKYO METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2024
5月24日、31日	フジテレビ「コラボレーションOCTPATH」
6月22日	GREEN FLASH FES 2024
7月13日	DAIENKAI 2024
7月14日	LuckyFes`24
7月20日	OSAKA GIGANTIC MUSIC FESTIVAL 2024
7月21日	韓国路上ライブ
8月10日	ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024
8月23日	Novelbright×Eric Nam 「Everywhere I Go」配信リリース
8月24日	MONSTER baSH 2024
8月25日	10th WILD BUNCH FEST. 2024
9月8日	TOMAKOMAI MIRAI FEST 2024
9月12日	VOI SQUARE CAT 10TH ANNIVERSARY 「TWO PIECE」
9月14日	Novelbright LIVE TOUR 2024 ~CIRCUS~ in T a i p e i
9月21日	ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2024 in HITACHINA KA
9月22日	イナズマロック フェス 2024

そのほか、当社グループに所属するアーティストやタレントの活動においては、「e t-アンド-」、「若月佑美」、「小栗有以」、「生駒里奈」、「鈴木絢音」、「古畑奈和」、「江籠裕奈」、「北野瑠華」、「高畑結希」などが、ドラマや各種イベント、情報番組への出演のほか、アニメや企業とのタイアップ企画、写真集の出版など、様々な場面において活躍の場を増やしております。

(デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、主にTAが、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションゲームアプリの企画・開発・運営を行っております。リリースから8周年を迎えた乃木坂46公式の「乃木恋」や、日向坂46公式の「ひなこい」、櫻坂46公式の「サクコイ」など、坂道シリーズ唯一の公式ゲームアプリ等に係る業務を行っております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益10,994百万円（前年同四半期比+19.3%）、セグメント利益1,398百万円（前年同四半期比△34.5%）となりました。なお、TAのグループインに伴い売上収益は増加しているものの、売上原価率の上昇に伴う売上総利益の減少のほか、持分法による投資利益が423百万円減少していることに加え、TAの計画が思うように進捗しておらず、当該会社の四半期損失221百万円を計上したことなどにより、前年同四半期比では大幅な減益となっております。

[映像制作事業]

同事業につきましては、株式会社UNITED PRODUCTIONS（以下「UP」という。）及び株式会社m a c a r o n iが既存の人気バラエティ番組や、所属アーティストのMVの制作のほか、ドラマ制作、映画製作委員会への出資及び製作を行っております。映像制作における、主な成果（レギュラー化やドラマ、映画製作等）は以下のとおりであります。

分類	放送・公開 開始日等	番組名 (補足)
バラエティ	1月4日	テレビ朝日「とみおたち」(特番)
	1月6日	NHK総合「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」(新春SP)
	1月7日	TBS「オールスタードッキリ祭」4時間SP(特番)
	1月9日	フジテレビ「今夜はナゾトレ川柳四天王2024VS新世代!川柳下剋上SP!」
	1月16日	TBS「THE神業チャレンジ」2時間SP
	2月9日	Netflixコメディシリーズ「トークサバイバー!~トークが面白いと生き残れるドラマ~」のシーズン3が制作決定。制作プロダクションとして参画
	3月19日	テレビ東京「何を隠そう…ソレが!」が4月24日からレギュラー化決定
	3月24日	J:COM「花火のギモン」(特番)
	4月6日	TBS「オールスター感謝祭2024春」5時間半SP(特番)
	5月29日	フジテレビ「FNS鬼レンチャン歌謡祭」3時間半SP(特番)
	9月3日~	Netflixコメディシリーズ「トークサバイバー!ラスト・オブ・ラフ」が世界独占配信開始
	9月4日	テレビ朝日「カズレーザー100%」放送開始
	9月10日	J:COM「花火のギモン」が第50回日本ケーブルテレビ大賞 番組アワードにて審査員特別賞を受賞
9月11日	「トークサバイバー!ラスト・オブ・ラフ」が日本のNetflix週間TOP10(シリーズ)第1位を獲得!	
ドラマ	1月26日~ 3月29日	TBSドラマ「不適切にもほどがある!」放送
	4月13日~ 6月16日	テレビ朝日「あなたの恋人、強奪します。」放送
	4月6日~	WOWOW「TOKYO VICE」シーズン2配信開始。7月には、ロケーションにおける世界的な賞のひとつ「第11回LMGI Awards」にノミネート
	5月31日	ドラマ「不適切にもほどがある!」第61回ギャラクシー賞テレビ部門特別賞を受賞!
	7月3日~ 9月11日	テレビ東京「ひだまりが聴こえる」放送
	8月16日	WOWOW 間宮祥太郎主演の連続ドラマW-30「ハスリンボーイ」ドラマ化が決定
	9月27日	韓国発の人気BL作品「未成年~未熟な俺たちは不器用に進行中~」ドラマ化が決定
映画	3月8日~ 公開終了	映画「マイホームヒーロー」全国公開
	8月1日	TOKYO ROCK STUDIO制作、映画「WHAT DIVIDES US(原題)」の制作(2025年)が決定!
	9月6日	長崎が舞台、映画「いろは」の制作を発表
	10月11日	内山拓也監督の商業長編デビュー作「若き見知らぬ者たち」が全国公開!
	10月11日	阿部寛主演 映画「ショウタイムセブン」が2025年2月7日から公開決定!

その他にも、既存のバラエティ番組をはじめ、特番等を多数制作しており、積極的に受注を獲得し、着実に実績を積み上げております。

株式会社TechCarry(以下「TC」という。)で展開しております、番組制作等でプロの技術者が使用する機材レンタル事業やデジタル事業につきましては、着実に実績を積み上げております。また、昨年までTCにて行っておりました映像編集作業を行うポスプロ事業につきましては、UPのポスプロ事業部と事業統合し順調に推移しております。

制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況に伴って、人材の安定雇用に伴う人件費の増加により、利益率が下がっている状況にはあるものの、引き続き堅実に実績を積み上げております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益4,636百万円(前年同四半期比△4.7%)、セグメント利益167百万円(前年同四半期比△15.4%)となりました。なお、レギュラー番組では好採算案件等が増加しており、売上収益では堅調に推移しているものの、人件費の増加に伴う利益率の悪化や、前年に設立しておりますTOKYO ROCK STUDIO株式会社(以下「TRS」という。)に紐づく海外案件やドラマ及び映画製作等の大型案件を獲得するための先行費用を計上していることに加え、当該案件の稼働が当初の予定から来期以降にズレ込みましたことなどにより、前年同四半期比で減収減益となっております。

〔広告代理店事業〕

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告部門では、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。

株式会社allfuz（以下「AF」という。）にて展開する広告代理店部門につきましては、特に株式会社セブンイレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて、年間を通して様々な取り組みを実施しております。広告代理店における実績となった主な実施案件は以下のとおりであります。

EC販売・キャンペーン等開始日	案件名
2023年10月6日	CANADA GOOSE 新店舗オープンイベントキャストイング (窪塚洋介) (内田理央) (塩野瑛久)
2023年10月19日～	QVC出演キャストイング (松本明子)
2023年11月1日～	全日本大学バスケット選手権のオフィシャルサポーター就任 (僕が見たかった青空)
2023年11月22日～	KOSE「MAKE KEEP MIST」SNS広告 (小栗有以)
2023年11月24日～	「RESEXXY」WEB企画キャストイング (中尾暢樹)
2023年12月21日～	KOSE「MAKE KEEP MIST」広告動画 (小栗有以)
2023年12月22日～	CROSS×RIVER PRODUCTION オフィシャルグッズ
2023年12月25日～	純烈 marimani 第1弾セラミックかっさ販売
2024年1月4日～	「CHINTAI」の新CM 他 (僕が見たかった青空)
2024年2月20日～	小栗有以 オリジナルバスソルト付きカレンダー (予約開始)
2024年2月21日～	TOKYO INDIE GAMES SUMMIT 2024 グッズ販売 (予約開始)
2024年2月23日～ 3月31日	LIVE EMPOWER CHILDREN 2024 コンテンツプリント
2024年3月29日～	Bistro NAOTO
2024年4月19日～	沖縄SV コーヒー豆2種&ミルセット (予約開始)
2024年7月29日～	「佐野史郎」企業メッセージ公開
2024年7月26日～	土井レミイ杏利×白鶴酒造コラボ「レミたんブラー」 (予約開始)
2024年8月8日	SKE48 8期生8人の8周年コンサート🎵ぱちぱちぱーちい🎵アトリオン製菓 《パチパチパニック》
2024年8月17日	柴田直人(ANTHEM) Bistro NAOTO 第2弾ガッデム町中華カレー
2024年8月30日～	足立佳奈 岐阜県産の「龍の瞳」&美濃焼きオリジナルお茶碗セット (予約開始)
2024年8月31日～	Tiny TAN 3Dシリコンワッペン POPUP STORE
2024年9月30日～	ビクターロック祭り2024 オフィシャルグッズ販売

※販売開始時期やキャンペーン開始時期を問わず、当四半期連結累計期間の積み上げ案件を列举しております。

※広告代理店部門におきましては、相手先企業との契約上の兼ね合いから公表できる案件名は少なく、上記実績はその一部となります。上記のほか、有名スポーツ選手を起用したテレビCMに関する案件、スポーツ競技や各種イベント、著名アーティストの協賛に関わる業務、行政機関や各企業、学校法人等からの依頼案件において実績を積み上げております。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益6,204百万円（前年同四半期比△15.2%）、セグメント利益104百万円（前年同四半期比△28.6%）となりました。主要広告クライアントとの取り組みについて、好採算案件の獲得が順調に推移したこと、また、アフィリエイト広告の分析・運用などを行うメディア事業部門におきまして、運用の見直しやコスト面での改善を図ったことなどによりまして、売上、利益の両面で改善は図られているものの、デジタル広告部門における主要取引先である脱毛業界における広告出稿の見直しなどの影響が想定よりも大きかったことで、依然として、前年同四半期比で減収、減益となっております。

〔その他事業〕

同事業につきましては、当社において不動産賃貸事業を展開しており、売上収益92百万円（前年同四半期比+25.0%）、セグメント利益35百万円（前年同四半期比+78.6%）となりました。

なお、トポスが所有していた投資不動産を取得したことに伴い、当該投資不動産の賃貸収入により増収、増益となっております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

①資産、負債及び資本の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて5,046百万円増の32,262百万円となりました。これは主としてのれん、投資不動産及びその他の金融資産が増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて4,162百万円増の11,857百万円となりました。これは主として社債及び借入金、営業債務及びその他の債務、未払法人所得税等及び契約負債が増加したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて884百万円増の20,404百万円となりました。これは主として自己株式の処分により増加したことに加え、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ613百万円減少し4,470百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,815百万円の資金の増加（前年同四半期比+124.1%）となりました。これは主として税引前四半期利益の計上に加え、営業債権及びその他の債権の減少、契約負債の増加により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、4,116百万円の資金の減少（前年同四半期は710百万円の資金の増加）となりました。これは主として利息及び配当金の受取があった一方で、投資不動産の取得、被担保債権の取得及び連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,687百万円の資金の増加（前年同四半期は730百万円の資金の減少）となりました。これは主として利息及び配当金の支払、長期借入金の返済、リース負債の返済により資金が減少した一方で、自己株式の売却及び長期借入れによる収入により資金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期における通期連結業績予想につきましては、2024年10月18日付け「負ののれん発生益の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、10月1日付けで物流事業及び倉庫事業等を展開しているトポスを連結子会社化しており、同社グループインに伴う会計処理により、識別可能な無形資産の評価及び会計監査は未了であり暫定的な処理ではありますが現時点において、約1,500百万円の負ののれん発生益の計上を見込んでおります。これに伴い、売上収益を現状維持の32,000百万円、営業利益を600百万円増加の3,000百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益も800百万円増加の3,000百万円と見込んでおります。

トポスが有する複数の物流倉庫における広大な空間及び、運送用車両による機動力などの事業リソースや、同社の保有する不動産の将来的な価値が当社グループの事業規模拡大に寄与していくものと考えております。また、同社の幅広いパイプを介した当社保有IPのキャスティング機会の創出をはじめ、ライブや興行、イベントに係る物流面でのバックアップなど、エンターテインメント業界に寄った運送事業の可能性など、グループメリットを最大限活かしてまいります。

各セグメント別の取り組み事項は以下のとおりであります。

〔総合エンターテインメント事業〕

ライブ・エンターテインメント部門につきましては、所属アーティスト・モデル・俳優・タレント・スポーツ選手等の様々な活動を通して、多くのファンの皆様にご支援いただけるプロダクション運営を行ってまいります。

2024年12月期第4四半期における大型イベントの開催予定等につきましては、乃木坂46は、10月7日より「36th S G アンダーライブ」を開催中であり、11月下旬までに5都市11公演を予定しております。SKE48は、日々の劇場公演の開催のほか、10月12日からの3日間におきまして「SKE48 16th Anniversary Festival 2024」を開催いたしましたことに加え、10月2日には33枚目のシングル「告白心拍数」をリリースいたしました。また、11月1日には、ファンと運営との情報・意見交換の場を通して更なる活動の幅を広げることを目的に、「SKE48ファンと運営との座談会」を開催いたしました。Novelbrightにつきましては、4月6日の北海道を皮切りに国内26都市29公演に加え台湾、韓国で「Novelbright LIVE TOUR 2024 ～CIRCUS～」を開催、10月5～6日の両日には「Novelbright LIVE TOUR 2024 ～CIRCUS～ FINAL」として、ヴォーカルである竹中雄大の故郷、姫路市のシンボルである世界遺産・姫路城にて2日間の野外ワンマンライブを開催いたしました。

タレント等につきましても、俳優としての評価が上がっている若月佑美や生駒里奈、小栗有以のほか、NHK連続テレビ小説などへの出演で評価を高めている古畑奈和や、アーティストとしてソロ活動をする江籠裕奈に加え、谷真理佳、高畑結希、北野瑠華がソロ活動を開始しております。また、ゼストスクールから、フィメールラッパーとしてR I V Aが1st EP「GO UP」で、デジタルシングルデビューいたしました。このほか、T i k T o kのフォロワー数700万人を誇る元ハンドボール選手の土井レミイ杏利や複数の所属アーティスト、タレントが活躍の幅を拡げております。B Jにおいては、秋好美桜や上原彩有が、10月19日開催の「R a k u t e n G i r l s a w a r d 2024 A U T U M N / W I N T E R」にモデルとしてランウェイを歩くなどの活動を開始しており、引き続き次世代のI P発掘と育成にも注力してまいります。

デジタル・コンテンツ部門につきましては、引き続き乃木坂46や日向坂46、櫻坂46の全坂道グループのスマートフォン向けのゲームアプリの企画・開発・運営、プラットフォーム事業や映像・I P事業、デジタルマーケティング事業なども多角的に展開してまいります。今後はその開発リソースと、既存事業とのグループシナジーによる新展開及び発展を図ってまいります。

〔映像制作事業〕

現在の主流であるバラエティ番組では、企画・制作力を活かして、「千鳥の鬼レンチャン（フジテレビ）」や「イタズラジャーニー（フジテレビ）」「熱狂マニアさん！（TBS）」など、引き続きレギュラー番組16件の制作に携わっております。これらの実績が放送各局でも評価されており、新たに「何を隠そう…ソレが！（テレビ東京）」がレギュラー化されるなど、着実に実績を積み上げております。そのほか、全世界190カ国以上で配信されているN e t f l i x コメディシリーズ「トークサバイバー！～トークが面白いと生き残れるドラマ～（N e t f l i x）」のシーズン3が9月3日より全世界同時配信を開始しております。

映画製作では、内山拓也監督の商業長編デビュー作となる「若き見知らぬ者たち」が10月11日より全国公開されていることに加え、同日には阿部寛主演の新作映画「ショウタイムセブン」が2025年2月7日から全国公開されることがリリースされております。ドラマ制作では、間宮祥太郎主演の連続ドラマW-30「ハスリンボーイ（WOWOW）」のドラマ化に伴う制作参加に加え、韓国発の人気B L作品「未成年～未熟な俺たちは不器用に進行中～」のドラマ化にも携わるなど、順調な制作案件の積み上げができております。

新規事業の分野では、T R Sが映像制作現場のバックオフィス業務を担う制作経理業務及びグローバル向け作品の企画・制作を進めており、直近では、映画「WHAT DIVIDES US（原題）」の制作（2025年開始）が公表されていることに加え、映像制作の業界において重要視されるロケーション選定に係る世界的な賞である「第11回LMGI Awards」にノミネートされるなど着実な実績を積み上げると共に、高い評価を受けております。

今後も業況に合わせた社内体制や予算管理体制の更なる強化を図り、映像制作におけるノウハウと人材派遣で培った多くの制作会社や各放送局、各種配信プラットフォーム等とのリレーションを活かし、安定的かつ高品質の制作案件を継続的に手掛けると共に、グローバル向け作品の企画・制作を推進することで、更なる収益構造の強化を目指します。

〔広告代理店事業〕

デジタル広告部門におきましては、Y o u T u b e等の動画配信プラットフォーム向けの広告案件を手掛けることにより、T i k T o kやI n s t a g r a m、F a c e b o o k、L I N E A d s P l a t f o r m等、広告媒体としての活用度に拡がりを見せているデジタル広告プラットフォームに対して、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業に関する事業を引き続き展開していくほか、T Aが展開している、プラットフォーム事業や映像・I P事業、デジタルマーケティング事業等の実績に基づくグループシナジーによる広告案件の受注戦略をとるほか、不動産業界や金融業界等の新たな事業分野への積極的な展開によって、引き続き業容の拡大を図ってまいります。

広告代理店部門におきましては、前期実施した大手証券会社等における大型広告案件の継続のほか、引き続きセブン・イレブン・ジャパンを中心に優良案件を獲得していくことに加え、A Fが資本参画しておりますアイドルグループ「僕が見たかった青空」が歌う「空色の水しぶき」が、10月25日より全国公開されている劇場アニメーション「がんばっていきまっしょい」の主題歌になるなど、引き続き広告代理店及びマーチャンダイジングの部分で大型の広告案件を含めた各種活動をサポートしてまいります。

また、既存のグループ内コンテンツを活用した各種イベントの企画・提案・運営を行っており、商業施設におけるライブ開催や、SNSとの連動企画等を通して、様々な企業との取り組みを月間2～5本実施しており、引き続き積極的な展開を図ってまいります。

今後につきましても、イベントの企画・提案・開発のほか、企画に基づく商品企画のマネタイズもできる等、クライアントの要望を一手に引き受けられるノウハウを背景に、大手企業やスポーツチーム、著名アーティスト等とのタイアップを行い、グループの強みを生かした積極的な営業戦略によって、大小を問わず様々な案件に携わることで、事業規模の拡大に努めてまいります。

〔その他事業〕

不動産賃貸事業につきましては、引き続き安定した運用を行ってまいります。

なお、10月1日よりグループインしておりますトポスの第4四半期に係る業績につきましては、当該事業セグメントにおいてご報告の予定です。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績や市場環境は、今後様々な要因によって変更となる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	5,084,034	4,470,979
営業債権及びその他の債権	3,651,230	3,778,572
その他の金融資産	987,390	855,623
棚卸資産	386,769	891,239
その他の流動資産	231,197	296,901
流動資産合計	10,340,622	10,293,316
非流動資産		
有形固定資産	937,604	851,310
のれん	5,218,852	6,364,099
無形資産	1,571,345	1,346,759
投資不動産	934,961	2,791,275
持分法で会計処理している投資	7,042,877	7,620,591
その他の金融資産	699,641	2,341,432
繰延税金資産	317,144	529,396
その他の非流動資産	152,287	124,145
非流動資産合計	16,874,715	21,969,009
資産合計	27,215,337	32,262,326

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	3,195,710	3,888,794
社債及び借入金	881,502	1,155,429
その他の金融負債	642,872	526,260
未払法人所得税等	25,594	403,278
引当金	99,757	171,458
契約負債	319,850	802,878
その他の流動負債	292,729	376,267
流動負債合計	5,458,017	7,324,368
非流動負債		
社債及び借入金	1,081,517	3,351,192
その他の金融負債	690,691	718,725
長期従業員給付	178,504	195,499
引当金	151,956	162,044
繰延税金負債	135,086	106,121
非流動負債合計	2,237,756	4,533,583
負債合計	7,695,774	11,857,951
資本		
資本金	92,450	92,450
資本剰余金	14,667,114	14,664,171
自己株式	△440,809	△132,420
その他の資本の構成要素	73,945	70,641
利益剰余金	5,564,566	6,093,493
親会社の所有者に帰属する持分合計	19,957,267	20,788,335
非支配持分	△437,703	△383,960
資本合計	19,519,563	20,404,374
負債及び資本合計	27,215,337	32,262,326

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
(要約四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上収益	21,469,665	21,928,487
売上原価	17,826,601	18,234,813
売上総利益	3,643,063	3,693,673
販売費及び一般管理費	2,907,845	3,332,736
持分法による投資利益	1,211,402	787,506
その他の収益	55,605	19,904
その他の費用	10,392	19,657
営業利益	1,991,833	1,148,690
金融収益	7,499	12,809
金融費用	55,864	64,966
税引前四半期利益	1,943,468	1,096,532
法人所得税費用	344,316	305,407
四半期利益	1,599,151	791,125
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	1,614,812	898,913
非支配持分	△15,660	△107,788
四半期利益	1,599,151	791,125
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	86.30	47.82
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	86.30	47.82

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期利益	1,599,151	791,125
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	△17,519	△3,787
純損益に振り替えられることのない項目合計	△17,519	△3,787
税引後その他の包括利益	△17,519	△3,787
四半期包括利益	1,581,632	787,338
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,597,293	895,126
非支配持分	△15,660	△107,788
四半期包括利益	1,581,632	787,338

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2023年1月1日時点の残高	92,450	14,660,367	△94,655	86,597	3,645,088	18,389,847	△395,376	17,994,471
四半期利益					1,614,812	1,614,812	△15,660	1,599,151
その他の包括利益				△17,519		△17,519		△17,519
四半期包括利益合計	—	—	—	△17,519	1,614,812	1,597,293	△15,660	1,581,632
新株予約権の行使 剰余金の配当				△440	△188,365	△440 △188,365		△440 △188,365
自己株式の取得		△866	△204,151			△205,017		△205,017
自己株式の処分		4,760	38,360			43,120		43,120
支配継続子会社に対する持分変動		3,694				3,694	△11,794	△8,100
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替				7,031	△7,031	—		—
所有者との取引額合計	—	7,587	△165,791	6,591	△195,396	△347,008	△11,794	△358,802
2023年9月30日時点の残高	92,450	14,667,954	△260,446	75,669	5,064,504	19,640,131	△422,830	19,217,301

当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2024年1月1日時点の残高	92,450	14,667,114	△440,809	73,945	5,564,566	19,957,267	△437,703	19,519,563
四半期利益					898,913	898,913	△107,788	791,125
その他の包括利益				△3,787		△3,787		△3,787
四半期包括利益合計	—	—	—	△3,787	898,913	895,126	△107,788	787,338
連結子会社の増加による非支配持分の増加						—	162,151	162,151
剰余金の配当					△369,504	△369,504		△369,504
自己株式の取得			△2,190			△2,190		△2,190
自己株式の処分		△2,297	310,579			308,281		308,281
支配継続子会社に対する持分変動		△645				△645	△619	△1,265
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替				482	△482	—		—
所有者との取引額合計	—	△2,942	308,388	482	△369,987	△64,058	161,531	97,472
2024年9月30日時点の残高	92,450	14,664,171	△132,420	70,641	6,093,493	20,788,335	△383,960	20,404,374

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	1,943,468	1,096,532
減価償却費及び償却費	745,869	836,392
受取利息及び受取配当金	△5,144	△6,510
支払利息	34,350	48,734
持分法による投資損益(△は益)	△1,211,402	△787,506
固定資産売却損益(△は益)	△2,558	△429
固定資産除却損	0	14,135
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正 価値変動	20,872	5,028
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△962,824	368,849
棚卸資産の増減額(△は増加)	△134,400	△499,422
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	700,638	176,797
契約負債の増減額(△は減少)	271,325	362,489
預り金の増減額(△は減少)	△34,837	△29,223
引当金の増減額(△は減少)	143,047	64,926
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	36,701	16,995
その他	△46,113	△10,796
小計	1,498,992	1,656,992
法人所得税等の支払額	△785,243	△31,298
法人所得税等の還付額	96,412	189,793
営業活動によるキャッシュ・フロー	810,161	1,815,487
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△40,000	435,105
有形固定資産の取得による支出	△89,068	△102,611
有形固定資産の売却による収入	2,558	549
無形資産の取得による支出	△400	△3,470
投資不動産の取得による支出	—	△1,885,577
投資有価証券の取得による支出	—	△3,000
投資有価証券の売却による収入	100,788	4,363
出資金の払込による支出	△19,297	△47,175
保険積立金の積立による支出	△48,636	△48,097
敷金保証金の差入による支出	△163,266	△12,162
敷金保証金の回収による収入	156,008	141,536
資産除去債務の履行による支出	△2,065	△24,050
利息及び配当金の受取額	795,144	376,013
関係会社貸付けによる支出	—	△121,000
短期貸付金の純増減額(△は増加)	—	△150,000
被担保債権の取得による支出	—	△1,548,092
事業譲受による収入	17,298	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,017,553
持分法で会計処理している投資の取得による支出	—	△164,500
その他	1,728	53,344
投資活動によるキャッシュ・フロー	710,792	△4,116,376

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△3,755
長期借入れによる収入	850,000	3,303,000
長期借入金の返済による支出	△761,801	△1,034,782
社債の償還による支出	△14,000	△14,000
自己株式の取得による支出	△204,151	△2,190
自己株式の売却による収入	—	309,841
利息及び配当金の支払額	△206,887	△384,808
リース負債の返済による支出	△427,495	△482,660
新株予約権の行使に伴う収入	42,680	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△8,100	—
その他	△873	△2,810
財務活動によるキャッシュ・フロー	△730,627	1,687,833
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	790,326	△613,055
現金及び現金同等物の期首残高	4,538,770	5,084,034
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,329,097	4,470,979

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項
(会計方針の変更)

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

また、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、一部の子会社を除き、見積年次実効税率を基に算定しております。

当社グループは、第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	負債の流動又は非流動への分類に関する要求事項を明確化 特約条件付の長期債務に関する情報の開示を要求する改訂
IAS第7号 IFRS第7号	キャッシュ・フロー計算書 金融商品：開示	サプライヤー・ファイナンス契約の透明性を増進させるための開示を要求する改訂
IFRS第16号	リース	セール・アンド・リースバック取引の取引後の会計処理を明確化

上記基準書の適用による要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」の3つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- 「総合エンターテインメント事業」：タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理
イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理
ゲームアプリ事業など
- 「映像制作事業」：各種映像コンテンツの企画・制作
映像制作スタッフの養成及び派遣など
- 「広告代理店事業」：タレント・アーティスト等のキャスティング
デジタル広告及びプロモーションの企画・開発
インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。

なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	9,217,416	4,865,202	7,312,660	21,395,279
セグメント間収益	38,494	4,778	134,971	178,244
合計	9,255,910	4,869,981	7,447,631	21,573,523
セグメント損益(注)3 (営業利益)	2,135,254	197,659	145,763	2,478,677

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	74,385	21,469,665	—	21,469,665
セグメント間収益	—	178,244	△178,244	—
合計	74,385	21,647,909	△178,244	21,469,665
セグメント損益(注)3 (営業利益)	19,917	2,498,595	△506,762	1,991,833

金融収益

7,499

金融費用

55,864

税引前四半期利益

1,943,468

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。

2. セグメント損益の調整額△506,762千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	10,994,344	4,636,822	6,204,353	21,835,519
セグメント間収益	41,170	11,379	92,981	145,531
合計	11,035,515	4,648,201	6,297,334	21,981,051
セグメント損益(注)3 (営業利益)	1,398,092	167,185	104,088	1,669,365

金融収益

金融費用

税引前四半期利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	92,967	21,928,487	—	21,928,487
セグメント間収益	—	145,531	△145,531	—
合計	92,967	22,074,018	△145,531	21,928,487
セグメント損益(注)3 (営業利益)	35,564	1,704,929	△556,239	1,148,690

金融収益

12,809

金融費用

64,966

税引前四半期利益

1,096,532

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。
2. セグメント損益の調整額△556,239千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による子会社化)

当社は、2024年4月30日開催の取締役会において、株式会社トポスエンタープライズ（以下「トポス」という。）に対して、スポンサーとして再生支援することを決議し、同日付でスポンサー支援に関する最終契約書（以下「本件スポンサー契約」という。）を締結いたしました。また、本件スポンサー契約に記載のとおり、2024年10月1日付けで第三者割当増資の方法によりトポスが発行した新株式の全てを引き受け、子会社化いたしました。なお、下記(2)ア.の貸付及び下記(5)の株式取得の実行は、民事再生法第166条第1項及び第166条の2第2項に基づく裁判所の許可を受けていること、及び民事再生法第174条第1項に基づく裁判所の認可が確定することを条件としておりましたが、2024年8月21日に裁判所の再生計画認可決定の確定がされたことに伴い、貸付及び株式取得を実行いたしました。

(1) スポンサー契約の経緯と株式取得の目的

トポスは、2023年10月30日付けでトポスのグループ会社であるパチンコホール運営を営む株式会社ガイア（以下「ガイア」という。）が民事再生法の申請を行ったことに伴い、同社におきましてもガイアの金融債務の一部を保証していた兼ね合いから、事業継続のための手続として東京地方裁判所に民事再生手続開始の申立てを行い、同日付で受理されて以降、事業の再建を図っております。

このような中、当社グループは、当社の取締役会長である藤澤信義が代表取締役社長を務める、当社の筆頭株主であるJトラスト株式会社（以下「Jトラスト」という。）からの紹介を受ける形で、トポスが有する複数の物流倉庫における広大な空間及び、運送用車両による機動力などの事業リソースの一部を、当社グループが展開する総合エンターテインメント事業や映像制作事業に取り込む或いは転用することによる、将来に向けた可能性につき模索することを主な目的として、同社のスポンサー支援について検討するための意向表明をしておりました。このような中、当社に対してご紹介をいただきましたJトラストにおきましても、ガイアとの間で基本合意書を締結し、Jトラスト、Jトラストの関係会社又はJトラストの指定するパートナー企業をガイアグループのスポンサー候補とし、これまで再生手続を遂行しながら、ガイアグループの事業を継続してきておりました。

当社は、意向表明以降、デューデリジェンス等を慎重に行った結果、トポスの安定的事業継続及び再生手続及び今後の円滑な再生計画の完遂の実現により同社の事業再生を図ることで、同社の有する幅広いパイプを介した当社保有IPのキャスティング機会の創出をはじめ、ライブや興行、イベントに係る物流面でのバックアップ、昨今の映像コンテンツの多様化に伴い不足傾向にある大型スタジオへの転用、エンターテインメント業界に寄った運送事業などの可能性に加え、同社の保有する不動産の将来的な価値が当社の事業規模拡大に値するとの結論に至りました。

よって、当社、Jトラスト及びガイアの3社で、「最終スポンサーの指定に関する覚書」を締結し、Jトラストにおいて、トポスの民事再生手続に関する最終スポンサーを当社に指定されたことを受けまして、当社とトポスの間でスポンサー契約を締結することにつき決議いたしました。

(2) スポンサー契約の主な内容

再生計画認可決定確定後

ア. 金銭消費貸借契約をトポスとの間で別途締結し、下記イ.の実行日に、貸付支援金として資金を拠出

貸付支援金額：433,500千円

イ. トポスの発行済株式の全部を当社が取得後、その全部の消却を実施の上、同日に当社が第三者割当増資の方法により発行した新株式の全てを引き受け

(3) 被取得企業の名称等

- | | |
|---------|------------------|
| ①名称 | 株式会社トポスエンタープライズ |
| ②住所 | 千葉県千葉市美浜区新港44番地3 |
| ③代表者の氏名 | 代表取締役 長井 修身 |
| ④事業の内容 | 運送事業、卸売事業、倉庫事業等 |

(4) 日程

第三者割当引受け日 2024年10月1日

金銭の払込日 2024年10月1日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

①取得する株式の数 1,800株

②取得価額 18,000千円

③取得後の持分比率 100%

※2024年10月31日付けで、普通株式1株をJトラスト株式会社に譲渡しております。

(6) 会計処理の概要

本株式取得は、IFRS第3号「企業結合」における取得法により会計処理をする予定であります。なお、本株式取得に伴い、2024年12月期の連結財務諸表において、負ののれん発生益約1,500百万円をその他の収益に計上する見込みであります。現時点では、識別可能な無形資産の評価及び会計監査は未了であり、取得の対価の取得した資産及び引き受けた負債への配分が完了していないことから、暫定的な金額としております。